SYLLABUS

2024 年度 秋学期

教職課程

青森公立大学

経営経済学部

目　　次

年次	授業科目名	単位	区分	担当	ページ
1	教育原論	②	必修	西村　吉弘	1
	生徒指導の理論と方法	①	必修	内海　隆	3
	健康とスポーツⅡ	①	必修	今村　秀司	5
2	教育課程論	①	必修	西村　吉弘	7
	教育相談の理論と方法	①	必修	鈴木　郁生	9
	特別支援教育論	①	必修	天海　丈久	11
	法律と人間	②	必修（公民）	小林　直樹	13
	宗教哲学	②	必修（公民）	木鎌　耕一郎	16
3	職業指導	④	必修（商業）	三上　雅也	18
	総合的な学習の時間の指導法	①	必修	坂本　徹	22
	中等教科教育法（商業Ⅱ）	②	必修（商業）	砂場　孝一郎	24
	中等教科教育法（公民Ⅱ）	②	必修（公民）	長谷川　光治	27
4	教育実習事前事後指導	①	必修	内海　隆 鈴木　郁生 西村　吉弘	29
	教育実習	②	必修	内海　隆 鈴木　郁生 西村　吉弘	31
	教職実践演習（中・高）	②	必修	内海　隆 鈴木　郁生	33

（様式１）

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
教育原論	2 単位	教職課程（必修科目）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
西村　吉弘	**時間**：初回の講義で連絡する。 **場所**：同上。	講義及び演習

〔科目の概要〕

教育専門職に従事する者として、対人関係能力を磨くことは、他者の現状を理解することと共に潜在的な要素を予見する際に重要となる。そのため、本講義では教育学の基本的理解を深めることを中心としつつ、学習者の自己理解、他者に対する他者理解、さらに専門家集団に必要な合意形成の重要性に至る幅広い力量形成の育成を目的とする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

教師として児童・生徒を教育及び支援するための視点や方法を身につけ、専門家として支えることの意味や社会的役割を理解する。また、教員養成に活かされる理論(学習論等)についても講義するので、応用できるように努める。

これらを通して、理念と実践を融合するための論理性を養い、反省的実践家としての教師を目指していく。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

学校教育の枠組みを理解し、教育実践のための基礎的な力を獲得する。また、知識の修得と共に、それを活用し口頭発表や論述においてアウトプットできる力を獲得する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

特筆すべきものがあった場合、コメントをする。尚、学生との対話は歓迎する。

〔教科書〕

木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ』有斐閣(2019)

〔指定図書〕

必要に応じて、授業中に案内する。

〔参考書〕

必要に応じて、授業中に案内する。

〔前提科目〕

関連する、各教職科目を履修しておくこと。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

基本的に、期末試験とレポートで判断する。尚、授業態度や授業時に指示する課題の取り組み方が芳しくない場合、期末試験・レポートの合計点から減点することがある。

提出されたレポートの結果や傾向については、授業内で解説を行う。

〔評価の基準及びスケール〕

評価基準の割合：期末試験 80 点、レポート 15 点。平常点5点。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

予習、復習を丁寧に行うこと。特に、復習に時間を割き、知識を体系的に捉えられるようにしておくこと。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第１回	テーマ（何を学ぶか）：教育と子ども 内　容：教育を捉える視点や日本の子ども観の展開を学ぶ。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第２回	テーマ（何を学ぶか）：教育と社会ー学校の成立 内　容：学校の展開と特徴、社会教育、家族・地域・生活の変容と学校の関わりを学ぶ。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』

第3回	テーマ(何を学ぶか):教育の目的 内　容:教養型リテラシーの変容や、「学ぶ」という行為とは何かを学ぶ。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第4回	テーマ(何を学ぶか):教育の目標・評価・学力 内　容:教育目標の性格や課題、学力をめぐる議論について学ぶ。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第5回	テーマ(何を学ぶか):カリキュラム開発 内　容:カリキュラム開発の2つの様式や、ヒドゥンカリキュラム等の定義を学ぶ。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第6回	テーマ(何を学ぶか):教材と学びの空間のデザイン 内　容:教材解釈や開発の在り方、多様な学校建築と教育実践について学ぶ。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第7回	テーマ(何を学ぶか):学習の過程と形態-状況的学習、学習論を踏まえて- 内　容:社会文化的アプローチと活動理論等の理論を学ぶ。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第8回	テーマ(何を学ぶか):学習論における媒介三角形の構築　演習 内　容:第7回で学習した学習論のうち、特に媒介三角形の理論構築に挑む。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第9回	テーマ(何を学ぶか):生活指導 内　容:生活指導の成立過程、異質協同型の集団づくりの可能性を学ぶ。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第10回	テーマ(何を学ぶか):教育相談 内　容:教育現場とカウンセリングマインドの関係性と、それらの相補的関係性の在り方を学ぶ。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第11回	テーマ(何を学ぶか):教師の力量とアイデンティティの形成 内　容:4つの教職モデルとその変遷、教職の専門職化を学ぶ。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第12回	テーマ(何を学ぶか):教育の制度 内　容:国家行政、地方教育行政の仕組みを学ぶ。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第13回	テーマ(何を学ぶか):共生の教育-特別なニーズ教育(SNE)① 内　容:子どもの権利条約、特別なニーズ教育(SNE)、インクルーシブ教育を学ぶ。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第14回	テーマ(何を学ぶか):共生の教育-特別なニーズ教育(SNE)② 内　容:普通学級と特別支援学級を融合した実践事例に基づき、共生の教育の実現について検討する。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
第15回	テーマ(何を学ぶか):まとめ-専門職の今後の展望と課題 内　容:これまでの学習全体の、まとめやふり返りを行う。 教科書・指定図書『教育学をつかむ』
試　験	論述試験を課す。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
生徒指導の理論と方法	１単位	教職科目（必修）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
内 海　隆 Uchiumi Takashi	**時間:**授業時に提示 **場所:**504 研究室	講義

〔科目の概要〕

学校は、生徒にとって教科を学ぶ場であると同時に人格形成の場でもある。この人格形成をさまざまな形で指導・援助しようとするのが生徒指導の基本である。

本講義では、人格形成の途上にある生徒を理解することからはじめ、できる限り的確な生徒指導・援助するための手がかりとなる実践的知識と方法を教授する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

教科を学ぶ学習指導と生徒の人格形成を支援する生徒指導は、教育の要である。その生徒指導は、生徒一人一人が集団生活において円滑に適応し、学習活動を維持していく上での基盤となるものである。その意味で、これから履修する「教育方法論」や「特別活動の理論と方法」、「進路指導の理論と方法」などの科目と密接に関連するので、今後の学習を効果的に進めるためにも大切である。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

生徒指導とは何か、生徒指導の意義という基本的なことを、単なる理論上だけでなく、実際の教育現場にあるという立場で理解し、考えていけるようになることを中間目標に設定している。

最終目標は、生徒指導を効果的に進めていくための具体的な方法（例えば、授業場面、特別活動場面における生徒との向き合い方、父母や地域の関係機関等との連携の取り方など）について、実践的な場面に即して対応できるようになることを想定している。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

講義では、できる限り参考となる事例を提示しながら授業内容に深みを持たせるように工夫する。また、事前に講義内容をまとめたプリント冊子を配布するので予習・復習に活用してほしい。

〔教科書〕

使用しない。講義内容に関して講師が作成した「プリント」（冊子）を事前に配布する。

〔指定図書〕

文部科学省『生徒指導提要』（令和４年改訂版）（文科省 HP でも閲覧できるが、個人で入手することを推奨する。）

〔参考書〕

講義の際に随時、紹介する。

〔前提科目〕

「教職概論」（1年次春学期開講科目）は、履修していることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

復習をかねて道徳教育にも関心を持ってもらいたい。

評価レポートを提出してもらい、下段の評価の基準、スケールで評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

A:100～80 点
B: 79～70 点
C: 69～60 点
D: 59～50 点
F: 49～ 0点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

生徒指導に関する理論だけでなく、学校現場でのアップツーデートな事柄も取り上げるので、自分たちの中・高校生時代の生徒指導場面や出会った先生方を想い出しながら、どのように生徒と向き合うことが望ましいのかを各自が考えてほしい。

〔実務経歴〕 該当なし。	
授業スケジュール	
第１回	テーマ(何を学ぶか)： オリエンテーション(講義の概要と進め方) 内　容： 教育をめぐる問題状況の諸相 生徒指導とは何か 教科書・指定図書　配布プリント
第２回	テーマ(何を学ぶか)： 生徒指導の歴史と理論 内　容： 生徒指導の歴史 生徒指導の理論的背景 教科書・指定図書　配布プリント
第３回	テーマ(何を学ぶか)： 学校における生徒指導 内　容： 生徒指導の組織的対応(「チーム学校」) 教科等における生徒指導 教科書・指定図書　配布プリント
第４回	テーマ(何を学ぶか)： 生徒理解と生徒指導 内　容： 生徒理解の観点 問題行動の理解と分類 教科書・指定図書　配布プリント
第５回	テーマ(何を学ぶか)： 生徒指導の事例(Ⅰ) 内　容： 中高生における問題行動(薬物、性の逸脱行動、長期欠席・不登校、引きこもりほか) 教科書・指定図書　配布プリント
第６回	テーマ(何を学ぶか)： 生徒指導の事例(Ⅱ) 内　容： いじめと「いじめ防止対策推進法」 特別支援教育に関する合理的配慮と対応 教科書・指定図書　配布プリント
第７回	テーマ(何を学ぶか)： 生徒指導の課題と動向 内　容： 生徒指導と道徳教育、キャリア教育 ティーチングとコーチングについて 教科書・指定図書　配布プリント
試　験	期末試験は実施しない。レポートを提出

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
健 康 と ス ポ ー ツ Ⅱ	1単位	アカデミック・ コモンベーシックス

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業方法〕
今村 秀司	時間: 場所:	実 技 中 心

〔科目の概要〕

スポーツは心身の発達を促し、人間性を豊かにし健康で文化的な生活を営む上で極めて重要な役割を果たすものである。生涯にわたってスポーツの楽しさを享受し、健康や体力の維持増進を図っていくために広い視野からスポーツを選択し、自身の技術向上と基礎体力の充実を目指す。
更に**仲間と協力することにより、協調性と責任感を身につけ、心身の健康についても配慮できるようにする。**
そのために、多くの仲間と相手を変えながらゲームを展開するなど、より充実した活動を実践し、継続してスポーツ活動ができる能力や方法を身につけさせる。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

スポーツは、人間の身体的・精神的欲求に応え、健康と体力を保持増進し、私達の人生を豊かで充実したものにしてくれる世界文化の一つである。「スポーツ」をすることは、単に趣味としてだけでなく「健康と体力づくり」、「人づくり」、「仲間づくり」のための手段として価値があり、明るく活力のある社会の形成に大きく寄与する。ここに開講されるスポーツ実技は、スポーツの文化的側面を深く理解し、運動の合理的な実践を通して、生涯にわたり健康な生活を営むことができるようになることを目指している。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

受講生の経験・興味・関心・技術に応じて、主体的に各種のスポーツ種目を選択し、基本技術・応用技術を学びながらゲーム中心に学習する。実践に際しては、正式のルールをベースに、簡易ルールの採用も可とした攻防のゲームを行いながら、選択種目をさらに深く理解し、個々の技術向上と体力増進を図る。
また、**仲間づくりや集団生活における自他の再発見の場**として、スポーツ活動の楽しさを体感する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生からの要望があればそのつど可能な限り対応して行きたい。これまでも「授業評価」に基づき工夫・改善に努めてきたが今後も続けていきたい。

〔教科書〕
な し

〔指定図書〕
な し

〔参考書〕
な し

〔前提科目〕
な し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

<u>選択したスポーツ種目への参加状況</u>、グループの一員としての役割分担、服装などの受講態度等を総合的に判断して評価する。また、スポーツ・体育実技の評価については、原則として次の基準によって行なう。
① 運動の特性の理解度 ② 意欲・公正さ ③ 技術の習得度

・平常評価 100点
<u>選択したスポーツ種目の参加状況、</u>及び、受講姿勢による評価。運動の特性の理解度、意欲・公正さ、技術の習得度に対する評価。

〔評価の基準及びスケール〕

A:100～80　B:79～70　C:69～60　D:59～50　F:49点以下

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・スポーツとは本来人間にとって大きな楽しみの一つであるが、基本的なルールや技術を身につけなければ楽しむレベルに到達することはできない。高校時代に厳しい部活動を経験してきた学生も多いと思われるが、別の視点にたってスポーツに取り組ませたいと考える。
学生諸君には、積極的に体を動かしよい汗をかくことをおおいに期待したい。

・運動に適した服装とシューズで受講すること。(ワイシャツ、ジーンズ等は認めない。内靴外靴の区別をする。**体育館内では内靴を厳守**)

〔授業スケジュール〕

授業の目標を達成するために、実践に必要な施設用具の整ったスポーツ種目（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球）の中から、受講生が主体的に選択したスポーツ種目をゲーム中心に実践する。
また、準備運動（アップ）・整理運動（ダウン）の重要性を理解させケガ防止の意識を高める。なお、ゲーム中心に実践するので、施設の関係や受講者が少なくチーム編成できない場合は、実施種目を制限することがある。

〔実施内容〕

- スポーツ種目の選択、グルーピング、学習過程・安全についての説明。
- 各種スポーツ種目の基本技術の知識と練習、採用ルールの確認。
- 安全に身体運動、スポーツ活動を行うためのウォーミングアップとクーリングダウンを**主体的に**実践できるよう確認。
- ゲーム分析・戦術などの検討をし、**レベルアップした質の高い攻防のゲーム**を目指す。
- グループでの役割分担、仲間としての責任感と協力心を培う。

〔実施種目と内容〕

テーマ(何を学ぶか)：　**バレーボール**
内　容：　基本的な技術、ポジショニング等チーム内でゲームを通して学びながら、**質の高い攻防**のゲームを目指す。

テーマ(何を学ぶか)：　**バスケットボール**
内　容：　基本的な技術、ディフェンス・オフェンスにかかわる戦術についてチーム内でゲームを通して学びながら、**質の高い攻防**のゲームを目指す。

テーマ(何を学ぶか)：　**バドミントン**
内　容：　各種ストロークやフットワーク等の基本技術とゲーム展開のための応用技術・戦術を学び、ダブルス・シングルスのゲームを通して**質の高い攻防**のゲームを目指す。

テーマ(何を学ぶか)：　**卓　球**
内　容：　基本的な技術を身に付け、ダブルス・シングルスのゲームを通して応用技術の体得・戦術に工夫を加え**質の高い攻防**のゲームを目指す。

〔試験〕・平常評価　100点
出席状況、及び受講姿勢による評価。運動の特性の理解度、意欲・公正さ、技術の習得度に対する評価。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
教育課程論	1 単位	教職課程（必修科目）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
西村　吉弘	**時間:**初回の講義で連絡する。 **場所:**同上。	講義及び演習

〔科目の概要〕

基本的な教育課程の仕組みを理解し、今日の学校教育が規定されている要因について学ぶ。そして、教育課程編成の実務的な側面に留意し、教職のための実践力を育む。

また、教育課程編成の構成とともに、道徳教育、教育評価、カリキュラム開発等について広く概観し、理解を深める。これらを通して、現代の教育問題やこれからの学校教育の在り方についても考えていく。

基本的に、講義形式の授業を行う。また、適宜アクティブラーニングの手法を活用し、授業を実施する。毎回の授業の後半に、講義内容に関連した検討課題を出すので、講義で学習したことを活かし、自身の見解をまとめられるように努めてもらいたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

教育課程は、学校教育の学習内容を規定する基盤となるものである。そのため、学習指導要領の目的や内容を深く理解し、それらを教育実践に繋げる思考を育む必要がある。

現在、学習指導要領は「最低基準」としての性格を有するものである。それは、即ち学習指導要領の内容を教えることに留まらず、教師の不断の努力により多くの豊かな教育実践を展開することが求められていると言える。そのような、教員個々の独自の実践を、追究することができるようになるための資質・能力を磨く。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

教育課程の枠組みを理解し、教育実践のための基礎的な力を獲得する。また、知識の修得と共に、それを活用し口頭発表や論述においてアウトプットできる力を獲得する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

特筆すべきものがあった場合、コメントをする。尚、学生との対話は歓迎する。

〔教科書〕

古川治・矢野裕俊編著『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房（2019）

〔指定図書〕

必要に応じて、授業中に案内する。

〔参考書〕

必要に応じて、授業中に案内する。

〔前提科目〕

関連する、各教職科目を履修しておくこと。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

基本的に、期末試験とレポートで判断する。尚、授業態度や授業時に指示する課題の取り組み方が芳しくない場合、期末試験・レポートの合計点から減点することがある。

提出されたレポートの結果や傾向については、授業内で解説を行う。

〔評価の基準及びスケール〕

評価基準の割合:期末試験 80 点、レポート 15 点。平常点5点。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

予習、復習を丁寧に行うこと。特に、復習に時間を割き、知識を体系的に捉えられるようにしておくこと。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第１回	テーマ（何を学ぶか）: 教育課程の意義 内　容: 教育課程の概念や様々なカリキュラムの定義を学ぶ。 教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』

第２回	テーマ(何を学ぶか):教育課程の編成と諸要因 内　容:教育課程編成の方法や手順、学校教育目標を学ぶ。 教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』
第３回	テーマ(何を学ぶか):小学校学習指導要領と教育課程編成の実際 内　容:初等教育の目的や、社会に開かれた教育課程、指導計画を学ぶ。 教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』
第４回	テーマ(何を学ぶか):中学校学習指導要領と教育課程編成の実際 内　容:中等教育の目的や、学習指導要領の方向性、道徳の教科化を学ぶ。 教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』
第５回	テーマ(何を学ぶか):高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際 内　容:高等学校教育課程の基本的枠組みや5つの原則、中高一貫教育、特別活動を学ぶ。 教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』
第６回	テーマ(何を学ぶか):学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連 内　容:カリキュラム・マネジメントや、学級経営と教育課程の関連性、キャリア教育を学ぶ。 教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』
第７回	テーマ(何を学ぶか):新学習指導要領と教育課程の編成とまとめ 内　容:新学習指導要領の目的やねらいを学ぶ。 教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』
試 験	レポート。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
教育相談の理論と方法	1 単位	教職課程（必修）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
鈴木郁生 Ikuo SUZUKI	**時間:**授業開始時に指示する **場所:**614 研究室	講義

〔科目の概要〕

本科目は、教育相談の理論と、その方法について学ぶ。これらの内容は、生徒達の抱える問題を理解し、生徒達を適切に援助していくために必要とされる知識である。具体的には、カウンセリングの理論や技法について学び、さらにいじめや不登校などの代表的な問題について理解を深める。更に、ロールプレイなども行いながら、教育相談の全体像について考察する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本科目は、教職課程における必修科目である。生徒達は学校の内外で様々な問題にぶつかるものであり、教師がそうした生徒達を適切に支援していくことが求められている。そのため教師として生徒と接するにあたっては、教育相談の理論や技法を学ぶことが重要である。また、相談を専門的に行うかどうかに限らず、カウンセリングマインドを理解し、それを基とした教育姿勢は教師として不可欠なものであろう。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

本科目の目標は、教育相談の理論と方法についての基本的な知識を修得することである。さらにカウンセリングマインドを理解し身につけていくことも期待している。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

良好な評価を頂いた。良い点として指摘された内容は、本年度も授業に取り入れていく予定である。

〔教科書〕

なし

〔指定図書〕

『カウンセリングの技法』 國分康隆　誠信書房
『カウンセリングの理論』 國分康隆　誠信書房

〔参考書〕

授業時に適宜紹介する

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

レポートによる評価を行う。また授業における課題への取り組みも評価の対象とする。これらを総合して評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

上記の〔学修の課題、評価の方法〕に記した総合点を、以下のように評定する。

A:100～80 点
B: 79～70 点
C: 69～60 点
D: 59～50 点
F: 49～ 0 点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 学生自身に考えさせ、理解を深めていくような授業を心掛けたい。受講者も未来の教師としての心構えを持って欲しい。また宿題やロールプレイに対しても積極的に取り組んでもらいたい。
〔実務経歴〕 該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか)： オリエンテーション・性格の理論 内　容： 初回の授業であり、本授業の目的と授業展開についてオリエンテーションを行う。また、教育相談の趣旨、性格・人格の理論について概説する。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか)： 人格把握の手法 内　容： 知能検査・性格検査などを通し、人格把握の手法と問題点について解説する。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか)： カウンセリングの理論 内　容： カウンセリングに関わる理論や現象、心理療法などについて学ぶ。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか)： カウンセリングの技法 内　容： カウンセリングの構造や基本五技法について学ぶ。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか)： カウンセリングの実際 内　容： カウンセリングが教育現場で実際にどのように行われているのか、事例を通して学習する。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか)： 教育における問題行動について 内　容： 不登校・いじめ・非行など、教育における問題行動について学び、それをカウンセリング事例として考える。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか)： 教育相談の実際 内　容： いじめ・不登校・非行といった問題行動に対しどのように接するのかをロールプレイを通して学習し考察する。 教科書・指定図書

〔科目名〕 特別支援教育論		〔単位数〕 １単位	〔科目区分〕 教職科目(必修)
〔担当者〕 天海　丈久	〔オフィス・アワー〕 時間:授業時 場所:講義室		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育に関する制度や理念、発達障害等のある児童生徒の障害特性や対応する教育課程、支援方法について学ぶ。また、貧困や外国につながる児童生徒等、特別な教育的ニーズのある児童生徒の困難やその支援について学ぶ。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

発達障害をはじめとする様々な障害等により、特別の支援を必要とする児童生徒は通常の学級にも在籍しているが、彼らが授業等の学習活動に主体的に参加し学ぶことができるよう、障害特性や学習上又は生活上の困難を理解したうえで、一人一人の教育的ニーズに対し、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していく必要がある。本科目を学ぶことで、これらの対応に必要な最低限の知識や支援方法が理解できる。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

最終目標:
1. インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解し、発達障害等をはじめとする特別の支援を必要とする児童生徒の心身の発達、心理的特性を理解する。
2. 児童生徒に対する教育課程や学習上又は生活上の困難に対応する支援の方法について理解する。
3. 障害はないが、貧困等の問題により特別の教育的ニーズのある児童生徒の学習上又は生活上の困難と対応について理解する。
4. 組織的な対応の必要性を理解する。

中間目標:
1. インクルーシブ教育システムの構築を含めた、特別支援教育に関する理念、歴史、制度、教育課程を理解する。
2. 発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童生徒の心身の発達、心理的特性を理解する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫

初年度のため、記載なし。

〔教科書〕

※必ず用意して講義に臨むこと。
京都教育大学教育創生リージョナルセンター機構 総合教育臨床センター監修(2024)『新訂版　教員になりたい学生のためのテキスト特別支援教育』クリエイツかもがわ:978-4-86342-367-1

〔指定図書〕

文部科学省（著）『特別支援学校幼稚部教育要領　特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版:978-4-303-12424-3
文部科学省(著)『特別支援学校高等部学習指導要領』海文堂出版:978-4-303-12427-4
文部科学省（編集）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂 978-4-304-04231-7
文部科学省（編集）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂 978-4-304-04229-4
文部科学省(編集)『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編(小学部・中学部)』開隆堂 978-4-304-04230-0
文部科学省(編集)『特別支援学校学習指導要領解説　総則等編(高等部)』ジアース教育新社:978-4-86371-525-7
文部科学省（編集）『特別支援学校学習指導要領解説　知的障害者教科等編（上）（高等部）』ジアース教育新社:978-4-86371-528-8
文部科学省（編集）『特別支援学校学習指導要領解説　知的障害者教科等編（下）（高等部）』ジアース教育新社:978-4-86371-529-5

〔参考書〕

授業で適宜紹介する。

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

期末試験(筆記試験)(90%)・授業への積極的な参加度(10%)を目安として、総合的に評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

履修規定に準ずる。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

発達障害等により、特別の教育的ニーズのある児童生徒は通常の学級にも在籍しているため、全ての教員が特別支援教育に係る最低限の知識と技能を有している必要がある。課題意識をもち、積極的に授業に参加していただきたい。

〔実務経歴〕

特別支援学校(知的障害・肢体不自由・病弱)及び教育行政での勤務経験も踏まえ、具体的な事例も取り上げながら講義を進める。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):特別支援教育の歴史的変遷と障害の概念 内　容:・特別支援教育の歴史　・特別支援教育の法制度と理念　・国際生活機能分類(ICF)　・合理的配慮 ・インクルーシブ教育システム　・特別支援教育体制の支援の仕組み 教科書(第14・1・2・章)
第2回	テーマ(何を学ぶか):特別の支援を必要とする児童生徒に対する教育課程や支援方法 内　容:・特別支援教育の対象となる児童生徒　・通常の学級における支援　・通級による指導　・自立活動の指導　・特別支援学級の教育 教科書(第3・9・10・11章)
第3回	テーマ(何を学ぶか):発達障害児(限局性学習症、注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症)の理解と支援 内　容:・発達障害児の発達と心理特性　・発達障害児の基本的な支援方法 教科書(第4・5章)
第4回	テーマ(何を学ぶか):視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、肢体不自由児、病弱児の理解と支援及び特別支援学校の教育 内　容:・視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、肢体不自由児、病弱児の理解と支援 ・特別支援学校の概要と教育 教科書(第6・12章)
第5回	テーマ(何を学ぶか):虐待・貧困・外国につながる児童生徒の理解と支援 内　容:・障害以外のことを理由とする特別な教育的ニーズ　・貧困・虐待・外国につながる児童生徒の理解と支援 教科書(第15章)
第6回	テーマ(何を学ぶか):個別の教育支援計画、個別の指導計画とカリキュラム・マネジメント 内　容:・アセスメント　・個別の教育支援計画と個別の指導計画の役割　・カリキュラム・マネジメントの充実に向けて 教科書(第7・8章)
第7回	テーマ(何を学ぶか):家庭や関係機関との連携 内　容:・家庭との連携　・福祉との連携　・医療・労働等との連携 教科書(第13章)
試　験	期末試験(筆記試験)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
法律と人間	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
小林　直樹	時間: 場所:612	講義

〔科目の概要〕

私たちは、法と無関係に生活することはできません。つまり、日常生活のあらゆる場面が法と結びついているということです。そのため、法に則って行動することで、私たちはトラブルを避け、安心して生活することができるのです。しかし、法から逸脱するならば、私たちはトラブルに巻き込まれ、加害者または被害者になることがあります。それゆえ、社会経験の浅い若い人ほど、法を学ぶ意義は大いにあります。もっとも、法を学ぶ意義はトラブルの回避に限りません。私たちは、社会の公共的利益（例えば、環境保全や景観の保持、少数派の人たちの人権の保障）を実現するために法の制定に関わらなければならないときもあります。そのためにも法を学ぶ意義があります。

本講義では、教養としての法の知識を修得し、その「考え方」を修得することを目的とします。とりわけ、中学・高校の公民や現代社会・政治経済で学んだ知識を基盤としつつ、日本国憲法およびそれに関連する法（法律や条例、または国際法規）について、報道番組や新聞記事等の具体的事例を通じて理解を深め、実生活において、教養としての法や法律の「考え方」を実践できるようになることも目的とします。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本講義の目標は、教養としての法や法律の「考え方」を修得することです。

法や法律は、社会の骨格の一部であることから、時代や国・地域の文化などの影響を受け、また、社会現象（自然環境の維持や動物の福祉、人の生命や人生設計等のライフスタイルのあり方、生命倫理、情報化社会における個人情報保護、AI の進化、企業と人権問題、難民問題等）に影響を受けて変化します。とりわけ、多様化する社会においては、興味関心のある分野（自然科学・人文科学）を学びつつ、併せて法や法律の「考え方」、更には権利や人権の「考え方」のバリエーションを増やしてほしいと思います。それにより、教養としての法や法律の「考え方」を一層深化させ、多様な「考え方」（複眼的見方）を修得することができると考えます。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

まず、法と法律の違い、また、法律と憲法の違いについて理解し、法、法律および憲法に関する基本的な用語を理解することを中間目標として設定しています。次に、以下の点を最終目標として修得してほしいと思います。

(1)　法や法律の「考え方」（学説や裁判例）を理解する。
(2)　法や法律の「考え方」を理解したうえで、説明できるようになる。
(3)　「憲法」の基本的な「考え方」を理解し、説明できるようになる。
(4)　(1)～(3)をもとに、社会における法的な問題について、自分の考えを自分の言葉で説明できるようになる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

〔教科書〕

とくに指定しません。
必要に応じて、参考となる書籍を紹介します。

〔指定図書〕

小川富之ほか『ロードマップ法学』（一学舎、2016）

〔参考書〕

遠藤研一郎『はじめまして、法学 第 2 版 身近なのに知らなすぎる「これって法的にどうなの？」』（ウェッジ、2023）、田中成明『法学入門〔第 3 版〕』（有斐閣、2023）、吉田利宏『元法制局キャリアが教える 法律を読む技術・学ぶ技術 〔改訂第 4 版〕』（ダイヤモンド社、2022）、宍戸常寿ほか『法学入門』（有斐閣、2021）、松井茂記ほか『はじめての法律学〔第 6 版〕』（有斐閣、2020）、末川博『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣、2014）など。

〔前提科目〕

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

前記「科目の到達目標」で記したとおり、用語の理解にとどまらず、多様な「考え方」を理解し、自分の言葉で説明することが本講義の目指すところです。定期試験では、到達目標の達成度をはかるために、用語の説明問題のみならず、事例問題をも出題する予定です。

なお、講義に出席しただけでは、学んだことが知識として定着することは困難と考えます。1 回の講義につき予習・復習を行い、全 15 回の講義で十分に予習・復習が実行されていることも評価していきたいと考えます。すなわち、講義中に、前回学んだ内容についての確認の質問や、予習が実行されているか確認の質問を行い、受け身の受講ではなく、投げかけられた質問に対する応答、積極的な受講姿勢についても評価したいと考えます。

〔評価の基準及びスケール〕

原則、定期試験100%により評価を行います。

試験の評価基準については、科目の到達目標の達成度を測ることになります。

なお、講義への積極的な参加を評価することとし、習熟度を確認するため時折質問をしますが、それに対する応答等の発言者に対しては加点を行う予定です(正解・不正解は問いません)。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本講義で学ぶ内容は、社会の出来事、つまり社会現象と無関係ではない法や法律に関する事柄です。日頃から、報道番組や新聞記事に目を通し、実社会で何が起きて何が問題となっているのか、ということに関心を持ってほしいと思います。社会を知る、関心を持つことが、教養としての法や法律を学ぶことにつながるからです。

また、前記「評価の方法」と「評価の基準」において触れたように、講義中、受講生に質問することが少なくありません(正解・不正解は問いません)。自分の考え方を正確に伝えるという意識をもって発言や応答を試みてほしいと思います。さらには、本講義を卒業後に求められるコミュニケーション能力の涵養の場として活用してほしいとも思います。コミュニケーション能力の重要な一つの点は、自分の言葉で自分の考えを正確に発することです。受講に際して受け身になるのではなく、教員とのコミュニケーションや他の受講生とのコミュニケーションを積極的におこない、講義が自己の成長発達の場となることを意識して受講してほしいと考えます。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション――社会における法・法律の役割―― 内　容: 法・法律が私たちの生活とどのようにかかわるのかについて、私たちがよく知る物語を素材にして理解します。第 1 回は、本講義における法・法律を学ぶことの導入であり、実際に法律を用いて社会問題の解決と、法・法律が社会でどのように機能するのかを体験し、法・法律の役割を理解していこうと思います。 教科書・指定図書　初回にレジュメを配布する。
第2回	テーマ(何を学ぶか):法学の基礎①――法とは何か―― 内　容:第1回のテーマを踏まえ、「法とは何か」ということをさらに掘り下げて学びます。すなわち、私たちを取り巻くルール・社会規範である法の種類(道徳、慣習、法律)の異同や差異について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
第3回	テーマ(何を学ぶか):法学の基礎②――法の発展と法の領域―― 内　容:第 2 回のテーマを踏まえ、社会における法の発展について概観し、体系化した近代法の下での法領域(公法と私法)について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
第4回	テーマ(何を学ぶか):法学の基礎③――法の解釈とその技法―― 内　容:第 3 回のテーマを踏まえ、法の適用と法解釈の技法すなわち、多種多様な法解釈について学び、法の考え方を学びます。また、いわゆる「法的思考」について触れ、法の解釈と適用により法的紛争の解決を図る一連の流れについて学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
第5回	テーマ(何を学ぶか):憲法を学ぶ①――憲法総論―― 内　容:国家統治の基本法あるいは基礎法であり、最高法規である憲法の基本原理について学び、憲法の存在意義、その特徴について学びます。また、憲法の歴史的変遷、つまり基本的人権の保障および統治の原理の変遷、立憲主義を学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
第6回	テーマ(何を学ぶか):憲法を学ぶ②――基本的人権―― 内　容:日本国憲法において保障される基本的人権の概要について触れ、憲法によって人権が保障される意義について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。

第7回	テーマ(何を学ぶか):憲法を学ぶ③――統治機構―― 内　容:日本国憲法に定める統治機構、すなわち国家のしくみについて学びます。とりわけ、権力分立原則の歴史的変遷、日本の憲法史について触れ、それらを学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
第8回	テーマ(何を学ぶか):民事法を学ぶ 内　容:私たちにとって身近な法律が民法であり、社会で生活していくうえですべてに関係する法です。具体例では、財産や契約にかかわるルールと家族にかかわるルール等がありますが、ここでは、民法を中心として民事法の基礎を学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
第9回	テーマ(何を学ぶか):刑事法を学ぶ 内　容:刑法とは、いかなる行為が犯罪となるのか、それに対していかなる刑罰が科されるかということを定めた法であり、刑罰によって犯罪を抑止し、私たちの生命や財産を保護する機能をもつものです。ここでは刑法を中心として刑事法の基礎を学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
第10回	テーマ(何を学ぶか):ある学生の退学事例 内　容:校則違反を理由として退学になった学生の事例を、憲法および民法のそれぞれの視点から学び、いかなる結論を導き出すことができるのかを考えます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
第11回	テーマ(何を学ぶか):幸福追求に限界はあるのか 内　容:日本国憲法13条が保障する「幸福追求権」は、国民の自由の保障をどこまで見ているのか、ということについて、「どぶろく裁判」および賭博事件を中心に学び、憲法で保障する自由と刑事法による処罰について、それぞれの視点から学び、いかなる結論が導きだすことができるのかを考えます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
第12回	テーマ(何を学ぶか):民間軍事会社に入社することは可能か 内　容:日本国憲法 22 条が保障する職業選択の自由と渡航の自由の限界と日本の刑事法による規制の緊張関係について学び、いかなる結論が導きだすことができるのかを考えます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
第13回	テーマ(何を学ぶか):国会議員の過激な表現と免責特権 内　容:国民を代表する国会議員に保障される日本国憲法 51 条の免責特権と民事および国家賠償法上の責任について、憲法および民法の視点から学び、いかなる結論が導きだすことができるのかを考えます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
第14回	テーマ(何を学ぶか):裁判所①――司法権の観念とその限界―― 内　容:日本国憲法 32 条の裁判を受ける権利および「司法」の観念、および司法権の限界について学び、裁判所の役割とは何かを考えます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
第15回	テーマ(何を学ぶか):裁判所②――裁判官の身分保障と裁判官像―― 内　容:「正義の実現」を使命とする司法部門に属する裁判官の身分保障は日本国憲法76条3項において明文で定められているが、政治的な干渉を排除し、裁判官は独立してその職務を遂行できるのかが問われる。裁判官の独立が、市民社会における「正義の実現」に応えるものか、ということについて事例をもとに学び、考えます。 教科書・指定図書　該当ページについて講義時に触れる。
試　験	講義中に扱った範囲から出題し、もっぱらレジュメおよび教科書において触れている内容から出題する。詳細は、前記「学修の課題、評価の方法」および「評価の基準及びスケール」を参照。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
宗教哲学	2 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
木鎌 耕一郎	**時間：授業開始前、終了後** **場所：教室、講師控室**	講義

〔科目の概要〕

本講義は、宗教学が扱う基礎的な問題を理解することを目的とします。多様な宗教思想を取り上げますが、授業担当者の専門に引き寄せて、ユダヤ教とキリスト教の宗教思想における主要な諸問題を多く扱います。こうした知識は、皆さんが専門的に学修する社会科学の分野にも有用だと思います。また、現代の国際社会における諸々の事象を読み解くうえでも示唆に富んでいます。本講義では、宗教に関わる思想的、歴史的、文化的な諸問題を、それらが生起した具体的な時代状況や社会的文脈を解説しながら考えていきます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

国際社会や地域社会で、多様な立場や価値観に基づく対立や闘争が見られる中で、異なる価値観を持つ者が存在することを知り、自らがその直中に共に生きていることを知り、互いに尊重することは、極めて重要な現代的要請です。そのような姿勢は、大学での学びを経て、社会の様々な場面で活躍する「教養人」として期待される資質のひとつでもあります。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・宗教学が扱う基礎的な諸問題を理解し、説明できる。
・ユダヤ教とキリスト教の宗教思想の基礎知識を身につけ、基本的な概念について説明できる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

2023 年度の授業評価では、すべての項目でおおむね高い評価となりほっとしている。今後も内容や資料、授業方法をブラッシュアップして臨みたい。

〔教科書〕

なし（毎回、資料を配布します）

〔指定図書〕

なし

〔参考書〕

・加藤隆『一神教の誕生 ： ユダヤ教からキリスト教へ』講談社現代新書
・市川裕『ユダヤ教の歴史』山川出版社
・竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社
＊その他、授業中に紹介します。

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

講義期間中に複数回課す小テストおよびリアクションペーパーによって評価します。

〔評価の基準及びスケール〕

以下の通りとします。
A 80 点以上
B 80 点未満 70 点以上
C 70 点未満 60 点以上
D 60 点未満 50 点以上
F 50 点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・予習として、シラバスを参考に、用語の意味等を調べておくと理解度が深まるでしょう。
・受講環境を保持するために、退室を願うことがあります。
・質問は授業中であっても歓迎します。

〔実務経歴〕	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 宗教の起源 内 容: 考古学的成果に見る宗教の萌芽、19 世紀の宗教研究、アニミズム
第2回	テーマ(何を学ぶか):神話 内 容: 神話の源流、創世神話の類型、世界創世神話の事例、神話批判
第3回	テーマ(何を学ぶか):儀礼 内 容:宗教儀礼と年中行事、消極的儀礼と積極的儀礼、通過儀礼(イニシエーション)
第4回	テーマ(何を学ぶか):諸宗教の礼拝形式 内 容:祈りの表現、汚れと清め、神道、仏教、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教
第5回	テーマ(何を学ぶか):日本人の宗教観 内 容:宗教統計調査、宗教意識の国際比較、宗教的行動の分類、神仏習合
第6回	テーマ(何を学ぶか):日本の宗教政策史 内 容:対キリシタン政策、国家神道、祭政一致と政教分離、神仏分離令、神社合祀令
第7回	テーマ(何を学ぶか):キリスト教と西洋文化(美術、音楽) 内 容:偶像崇拝、イコン、物語画、アトリビュート、グレゴリオ聖歌、ポリフォニー、小学唱歌
第8回	テーマ(何を学ぶか):キリスト教と西洋文化(文学) 内 容:「ヨブ記」、神議論、ダンテ、「神曲」、煉獄
第9回	テーマ(何を学ぶか):日本文学にみるキリスト教の受容 内 容:明治以降の日本宣教、キリスト教と出会った文学者、芥川龍之介、遠藤周作
第10回	テーマ(何を学ぶか):ユダヤ教の成立と信仰構造 内 容:原因譚神話、人間の創造、一神教、選民思想
第11回	テーマ(何を学ぶか): キリスト教の成立と信仰構造 内 容:新約聖書の成立と構造、ユダヤ教イエス派、隣人愛
第12回	テーマ(何を学ぶか): 聖書の成立史・翻訳史 内 容:正典化の経緯、ヴルガタ版聖書、ジョン・ウィクリフ、日本語訳聖書
第13回	テーマ(何を学ぶか):ユダヤ教とキリスト教の関係史(古代から中世) 内 容:ディアスポラ、置換神学、エクレシアとシナゴーグ
第14回	テーマ(何を学ぶか):ユダヤ教とキリスト教の関係史(近代以降) 内 容:反ユダヤ主義、反セム主義、ハスカラ、ドイツ・ナチ党の成立
第15回	テーマ(何を学ぶか):ユダヤ教とキリスト教の宗教間対話 内 容:宗教間対話、第二バチカン公会議
試 験	講義期間中に複数回課す小テストおよびリアクションペーパーによって評価します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
職業指導	4 単位	教職科目（教科必修） 経営学科（選択）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
三上　雅也	**時間:**初回の講義で連絡する **場所:**同上	講義

〔科目の概要〕

本科目は、高等学校商業科の教員免許状取得の必須科目であることを踏まえながら、個人が職業を選択する課程において、学校で行われる職業指導（近年は「進路指導」「キャリア教育」として取り扱われていることが多い）がどのような意義をもち、どのように機能しているのか。また、実際の場面において、どのような指導が行われているのかなど、教育免許状の対象である高等学校の教育段階に限定しないで、職業指導・進路指導・キャリア教育についての基本的な理論・考え方について講義を進めていく。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

教職の専門科目である「進路指導の理論と方法」と内容的に重複する部分があるが、教科としての職業指導の経緯などを理解することになるので、結果として進路指導やキャリア・ガイダンス等についての理論と方法の習得につながる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

本科目では、職業指導・進路指導をどう捉え、どう理解するかを第一のねらいにおいている。したがって、今日のキャリア教育（論）の経緯などにも触れながら、講義全体を通じて、望ましい勤労観・職業観の確立に努める。なお、学士力や社会人の基礎力にも通ずる自己のライフ・デザインの確立と自他との交流（リレーション）する力を身につけるため、講義形式のほかに意見を求める双方向の授業やグループ・ワーク等のエクササイズも取り入れた授業展開をする。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

経営学科の専門科目ではあるが、商業の免許状を取得する際の必須科目である。教職課程の教科に関する科目としてはボリュームのある4単位（30時間）であるにもかかわらず、教職課程履修者以外の受講した学生も多いので、エクササイズや発表なども積極的に導入した授業展開を予定している。また、授業回数が多いので、内容の節目で「まとめと確認」を行う。

〔教科書〕

特に指定しない

〔指定図書〕

特に指定しない

〔参考書〕

佐藤　史人　他　「新時代のキャリア教育と職業指導」　法律文化社
文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」（文部科学省の HP で確認できる）
文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き中学校・高等学校学習指導要領（平成29年・30年告示）準拠」（文部科学省の HP で確認できる）
寺田　盛紀「日本の職業教育」　晃洋書房

〔前提科目〕

教職課程の履修科目である「進路指導の理論と方法」など。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

講義時のワークシート（簡易なレポート含む）作成・提出。
評価は、ワークシートの提出状況、記載内容及び試験（レポート）の結果を踏まえて行う。
欠席が全講義回数の 1/3 を超える場合は単位認定の対象外とする。

〔評価の基準及びスケール〕

A:100～80 点
B: 79～70 点
C: 69～60 点
D: 59～50 点
F: 49～ 0 点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義はパワーポイント等で適宜資料を提示する。講義をしっかり聞き、ワークシートを作成し提出すること。 通常の講義形式の授業形態のほかにグループワークなども実施する予定であるので、授業に主体的に参画するようにする。欠席する場合は、連絡・報告すること。
〔実務経歴〕 該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内　容:科目「職業指導」の概要、講義スケジュール、「評価」と基準等について 教科書・指定図書　スライド投影
第2回	テーマ(何を学ぶか):職業の語義と種類と産業構造の変化と職業1 内　容:職業の語義と職業の種類について 　　戦後の混乱から高度成長時代について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第3回	テーマ(何を学ぶか):産業構造の変化と職業2 内　容:安定成長時代からIotとAIの時代について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第4回	テーマ(何を学ぶか):組織社会の職業の特徴について1 内　容:日本社会の特徴を組織から考える 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第5回	テーマ(何を学ぶか):組織社会の職業の特徴について2 内　容:日本社会の特徴を組織から考える 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第6回	テーマ(何を学ぶか):キャリア開発と職業指導 内　容:キャリア開発と職業指導について考える 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第7回	テーマ(何を学ぶか):職業指導について 内　容:職業指導、進路指導及びキャリア教育について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第8回	テーマ(何を学ぶか):職業指導の指導領域 内　容:職業指導が行なわれている場所について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第9回	テーマ(何を学ぶか):職業相談の役割 内　容:職業相談と進路相談について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第10回	テーマ(何を学ぶか):職業適性とその分類 内　容:職業適性について知る 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート

第11回	テーマ(何を学ぶか):職業適性に関する検査 内　容:職業適性検査の具体について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第12回	テーマ(何を学ぶか):学校におけるキャリア開発と支援 内　容:義務教育学校におけるキャリア開発と支援 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第13回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア開発と支援 内　容:商業科におけるキャリア開発と支援 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第14回	テーマ(何を学ぶか):雇用に関する権利と義務 内　容:雇用者と被雇用者のトラブルについて 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第15回	テーマ(何を学ぶか):世界のキャリア開発と支援　1 内　容:海外の地域の特色と日本との違い 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第16回	テーマ(何を学ぶか):世界のキャリア開発と支援　2 内　容:海外の地域の特色と日本との違い 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第17回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育の必要性と意義　1 内　容:若者の「社会的・職業的自立」 　　「学校から社会・職業への移行」を巡る経緯と現状 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第18回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育の必要性と意義　2 内　容:キャリ教育・職業教育の課題と基本的方向性 　　発達の段階に応じた体系的なキャリア教育の充実方策 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第19回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育の必要性と意義　3 内　容:高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実方策 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第20回	テーマ(何を学ぶか):「キャリア発達」 内　容:ライフ・キャリアの虹について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第21回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育と職業教育と進路指導 内　容:職業教育を通したキャリア教育の重要性 　　進路指導の定義と諸活動 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第22回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育の推進　1 内　容:設置形態、学科の特質に応じたキャリア教育 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第23回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育の推進　2 内　容:校内組織の整備の推進 　　計画の作成について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート

第24回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育の推進 3 内　容:連携の推進 　　キャリア教育の評価 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第25回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育実践 内　容:高等学校におけるキャリア発達 　　系統的なキャリア教育の取組 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第26回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育・商業教育の在り方 1 内　容:商業高校における体系的なキャリア教育について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第27回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育・商業教育の在り方 2 内　容:将来のスペシャリストの育成 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第28回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育・商業教育の在り方 3 内　容:商業教育について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第29回	テーマ(何を学ぶか):本県におけるキャリア教育 1 内　容: キャリア教育の指針(総論編) 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第30回	テーマ(何を学ぶか):本県におけるキャリア教育 2 内　容: キャリア・パスポート 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
試 験	レポート

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
総合的な学習の時間の指導法	１単位	教職科目（必修）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
坂本　徹	時間: 場所:	講義、演習

〔科目の概要〕
総合的な学習の時間の目標である、生徒が自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにするための理論と高等学校を中心とした実践的指導法及び評価について学ぶ。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕
総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を変えていくための資質・能力の育成を目指すものである。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現するために、指導計画作成の考え方と基礎的能力を身に付けるとともに評価の留意点を理解することを学ぶ。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕
① 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
② 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身につける。
③ 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕
履修だけではなく、得させることを目標に、わかりやすい授業を心がける。

〔教科書〕
高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等

〔指定図書〕
使用しない

〔参考書〕
講義の中で必要に応じて紹介する。

〔前提科目〕
なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
テストおよび授業の取組状況（参加度、課題提出等）により評価する。

〔評価の基準及びスケール〕
Ａ：１００～８０点
Ｂ：　７９～７０点
Ｃ：　６９～６０点
Ｄ：　５９～５０点
Ｆ：　４９～　０点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
単なる知識の伝達に留まることの無いよう、私自身の経験に基づく具体的な事例を紹介するとともに、ワークショップの活用によって、実践的な力をつけられるような授業を心がける。

「総合的な学習の時間」が設定された経緯や、高等学校教育における「総合的な探求の時間」の意義を理解するとともに、実際の授業運営にあたって必要な知識と技術を習得し、加えて人間的な魅力として豊かな感性を磨いてほしい。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: オリエンテーション ・高等学校の教育目的と学習指導要領 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
第2回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 総合的な学習の時間設定の経緯とねらい ・学習指導要領における総合的な学習の時間の目標を具体化するための指導内容と指導方法 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
第3回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 総合的な学習の時間の展開 ・学校全体のカリキュラムと各教科との接点指導、及び関連づけの体系化 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
第4回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 高等学校における実践事例と指導法 ・総合的な学習の時間の実践事例と指導案、生徒へのアンケートやインタビュー事例 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
第5回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 指導計画案の作成 ・課題設定と指導計画案作成 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
第6回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 模擬授業 ・模擬授業とピアレビュー 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
第7回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 総合的な学習の時間の評価(まとめ) ・ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価、生徒相互の評価を取り入れた主体的な言語活動のあり方 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
試　験	授業内(第7回)でまとめの小テストを実施します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
中等教科教育法（ 商 業 Ⅱ ）	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
砂 場　孝一郎 Sunaba　Koichiro	時間 ： 授業実施 12:00 ～ 12:50 場所 ： 非常勤講師 控え室	①

〔科目の概要〕

※ 高等学校教科「 商　業 」の指導法

※ 商業教育の理念、教育課程の編成方法、教育(授業)方法などについての認識と理解を得ること

※ 教科「商業」の、教育についての授業指導能力の基礎を培うことを目的に、講義と演習を行う。

※ 2022年度(令和4年度)から、新学習指導要領が　学年進行で実施されていることと、その要点の指導。

※ 学校教育に関する法令全般の解説 と 教員としての資質の向上と人間性の確立を目指す指導。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・ 商業の専門高校では、20科目の専門科目が準備されている。

・ この20の科目は、4つの分野と科目群に分かれ、それぞれの科目が実践力を育むと同時に

職業人として必要な豊かな人間性やコミュニケーション能力を育むように構成されている。

・ 商業教育に携わる教師は、広い見識でこれらの科目を通して商業教育を実践しなければならない。

・ よって、商業の教師を目指す学生は、大学（本学）において、関連する教育法規と専門的な商業の知識・技術を

体系的に学ばなければならない。

・ そして、学んだ者だけが、教員採用試験を受験する資格が得られ、教師への道が拓かれる。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

1 中間目標

・ 商業教育の歴史的変遷を踏まえ、学習指導要領の内容を学び、商業教育の現代的課題 及び
学校教育を支える校長等の教師の役割 更には 教育現場で発生する事象を法的に学び理解させる。

・ 商業教育が現代において、どのような役割を持ち、どのような社会貢献ができるかを理解させる。

2 最終目標

・ 新学習指導要領実施の3年目であるので、新しい時代を学ぶ心の準備の重要性を理解させる。

・ 商業科教員としての資質（ 知識 ・ 技術 ・ 心 ）の育成の重要性を理解させる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕
・ 前年度の学生の授業評価は、素直であり、実際的であり、厳しい内容のものもあった。
・ 板書の多い授業であるが、板書(文字を手書きすること)の重要性を理解できる学生であってほしい。
・ この科目を、教員採用試験に対応できる授業内容にするように努めていきたい。

〔教科書〕
・ 高等学校学習指導要領解説 商業編、 ビジネス基礎、 新簿記 以上 3 冊
・ 上記教科書は、春学期 中等教科教育法 (商 業 Ⅰ) において、34冊とも購入済みである。

〔指定図書〕

・ 必要な文献を随時指示する。

〔参考書〕
・ 青森県の教職・一般教養 過去問 当該年度版 協同教育研究会:編 協同出版株式会社
・ 青森県の教職教養 参考書 、 青森県の一般教養 参考書 協同教育研究会:編 協同出版株式会社

〔前提科目〕
・ 必要な教職科目を、修得または履修していること。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・ 学修の課題について ～ 教育現場で実際に課題として発生している課題 (例 : 働き方改革) を取り上げ、討論を実施する。
それらの内容を、レポートとして作成し、論点整理をして提出させる。
・ 評価の方法 ～ 学生の評価は、観点別 (関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解) 評価に基づき、絶対評価の方法で厳正に行う。
また、履修 ・ 評価 ・ 本学の評価規定に基づく評定 の順序で評価作業を行う。
・ テストについて ～ 最後の第15回授業の中で、筆記試験(知識・考え方)の方法で小テストを実施する。

〔評価の基準及びスケール〕

・ 評価の基準は、前述の「科目の到達目標」にどれだけ届いたかを確認するために作成する。
・ 具体的には、観点別 (関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解) 評価の項目に基づいて絶対評価を行う。
・ そして、学生の授業内活動(模擬授業) ・ 授業への参加貢献が適切にできていたか否かによって、評価する。
また、小テストや出席(あるいは欠席)時数のみで、評価されることはない。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・ 高等学校教育に関する文部科学省の施策を理解し、教育に興味・関心を持てる高校教師を育成したい。
・ 学生に対しては、教員免許取得のみを目的とするのではなく、教員採用試験の合格をめざしてほしい。

〔実務経歴〕
・ 該当なし

授業スケジュール

第１回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 新学習指導要領 と 商業教育の必要性と意義 「教科商業」の科目の内容 と 科目構成分野 教科書・指定図書 高校学習指導要領解説 ・「商業編」 ビジネス基礎、 新簿記、 情報処理
第２回	テーマ(何を学ぶか): 学校の組織 内 容: 校長・教頭・教諭等の役割 ※役割の具体的内容の確認 教科書・指定図書 高校学習指導要領解説 ・「商業編」
第３回	テーマ(何を学ぶか): 生徒の個人情報の記録と保護 内 容: 通知表と指導要領 ※法令上の規定 作成上の留意点 内 容: 教科「商業」の科目 「ビジネス基礎」指導の実際

第4回	テーマ(何を学ぶか)：生徒の指導 内　容：　懲戒と体罰について ※懲戒と体罰の法的根拠　　体罰の判断基準 教科書・指定図書　高校学習指導要領解説
第5回	テーマ(何を学ぶか)：　教職員の服務 内　容：服務の意味　服務義務　服務専念義務 教科書・指定図書　高校学習指導要領解説
第6回	テーマ(何を学ぶか)：守秘義務の実際 内　容：秘密とは何か　守秘義務違反の罰則　児童虐待との関係 教科書・指定図書　高校学習指導要領解説
第7回	テーマ(何を学ぶか)：　教員の処分 内　容：懲戒処分と分限処分 教科書・指定図書　高校学習指導要領解説
第8回	テーマ(何を学ぶか)：　教員の兼職と兼業 内　容：教育公務員の制限と特例 教科書・指定図書　高校学習指導要領解説
第9回	テーマ(何を学ぶか)：　教員の選挙運動 内　容：教育の政治的中立性　と　公職選挙法 教科書・指定図書　高校学習指導要領解説
第10回	テーマ(何を学ぶか)：　教員の研修制度 内　容：研修の重要性　研修の態様と服務との取り扱い　指導改善研修 教科書・指定図書　高校学習指導要領解説
第11回	テーマ(何を学ぶか)：虐待 内　容：虐待の意味　早期発見と通告義務　青少年保護育成条例 教科書・指定図書　高校学習指導要領解説
第12回	テーマ(何を学ぶか)：障害者基本法 内　容：同基本法の趣旨　学校教育と　インクルーシブ教育 教科書・指定図書　高校学習指導要領解説
第13回	テーマ(何を学ぶか)：　教育の方法と技術 内　容：教師の資質および教師という職業について 教科書・指定図書　高校学習指導要領解説　・「商業編」　ビジネス基礎、　新簿記、　情報処理
第14回	テーマ(何を学ぶか)：　教師に求められる資質　と　生徒の学習評価 内　容：　商業科教師への期待　と　観点別評価の方法と実際 教科書・指定図書　高校学習指導要領解説　・「商業編」　ビジネス基礎、　新簿記、　情報処理
第15回	テーマ(何を学ぶか)：商業教育の指導方法のまとめ 内　容：　中等教科教育法(商業Ⅱ)全体の総括 小テストの実施 教科書・指定図書　高校学習指導要領解説　・「商業編」　ビジネス基礎、　新簿記、　情報処理
試　験	最終授業(第15回)の中で、小テストを実施する。

（様式1）

〔科目名〕 中等教科教育法（公民Ⅱ）		〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 長谷川　光治	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:		〔授業の方法〕 講義・実習（模擬授業）

〔科目の概要〕

高等学校「公民」の授業の組み立て、学習指導案作成方法を理解し、実際に学習指導案を作成し、模擬授業を行い、高等学校教育現場における「公民」の実践的な教科指導方法を学ぶ。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

高等学校「公民」の教科指導の、授業の組み立てや学習指導案作成を学ぶことは、教育実習に向けての準備、学校現場での実践力となる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

(1) 教材研究と授業の組み立て方法を理解する。
(2) 公民科の学習指導案を作成することができる。
(3) 模擬授業を実践し、改善のための評価をする。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生の理解深度を確認しながら、指導案作成、教材研究、模擬授業の展開の具体的方法について授業をすすめていく。

〔教科書〕

〔指定図書〕

〔参考書〕

〔前提科目〕

中等教科教育法（公民Ⅰ）

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

教材の発掘事例、指導案の作成、模擬授業、「分析・考察シート」、
「自己評価シート」、 課題レポート

〔評価の基準及びスケール〕

指導案・模擬授業・「模擬授業分析・考察シート」・「模擬授業自己評価シート」・課題レポート
を総合的に評価。
（A:100～80　B:79～70　C:69～60　D:59～50　E:49～0）

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

「公民」の授業者となって教壇にあがることを意識し、授業に取り組むことを望みます。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール	
第１回	テーマ（何を学ぶか）：学習評価 内　容： 学習評価の意義と目的、観点別学習評価 、学習指導案と学習評価 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第２回	テーマ（何を学ぶか）：授業の組み立てと教材研究 内　容：教科書の活用と教材の発掘。 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第３回	テーマ（何を学ぶか）：「公民」の学習指導の特性(1) 内　容：学習活動の形態。 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第４回	テーマ（何を学ぶか）：「公民」の学習指導の特性(2) 内　容：マスメディアと情報機器の活用。 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第５回	テーマ（何を学ぶか）：学習指導案の事例 内　容：「公民」各科目の指導案の事例。目標の設定、指導計画と観点別評価。 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第６回	テーマ（何を学ぶか）：学習指導案の作成(1) 内　容：単元の目標・指導計画・評価。本時の学習展開。 （教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第７回	テーマ（何を学ぶか）：授業テーマの設定 内　容：模擬授業に向けて、授業テーマを設定。教材の発掘と研究方法の検討。 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第８回	テーマ（何を学ぶか）：学習指導案の作成(2) 内　容：模擬授業のための学習指導案(細案)の作成。 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第９回	テーマ（何を学ぶか）：模擬授業（1） 内　容：指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。 教科書・
第10回	テーマ（何を学ぶか）：模擬授業（2） 内　容：指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。 教科書・
第11回	テーマ（何を学ぶか）：模擬授業（3） 内　容： 指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。 教科書・
第12回	テーマ（何を学ぶか）：模擬授業（4） 内　容： 指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。 教科書・
第13回	テーマ（何を学ぶか）：模擬授業（5） 内　容： 指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。 教科書・
第14回	テーマ（何を学ぶか）：学校における安全管理と公民の授業 内　容： 教員としての心構え。学校現場での行動。授業時における危機管理。 教科書・教員作成資料
第15回	テーマ（何を学ぶか）：公民科教育のこれから 内　容：新学習指導要領の特色の理解から、公民教育について討論・考察する。 教科書・教員作成資料
試 験	課題・レポート

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
教育実習事前事後指導	１単位	教職科目（必修）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
鈴木　郁生・内海　隆・西村吉弘 Suzuki　Ikuo・Uchiumi　Takashi・Nishimura Yoshihiro	**時間:**授業時に提示する。 **場所:**同　上	講義・演習

〔科目の概要〕

春学期に開講する教育実習事前指導は、教育実習で必要とされる基礎・基本の理解を中心に、実習教科の学習指導案（授業案）の作成および板書指導も含めた模擬授業を通して実践的な指導を行う。

教育実習後の事後指導では、学校組織や生徒理解に努め、学習指導や生徒指導、特別活動の指導等に無理なく取り組むことができたかなどについて実習報告の形式で総括し、「教職実践演習」につなげる。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

実習校での教育実習(2週間又は3週間)を経験することによって、高等学校の現場を理解するとともに自らの教師としての適性等も考えることにつながる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

教職課程の最終段階となる「教育実習」に臨むにあたって、学校の組織・運営や生徒指導および教科・科目を中心とした学習指導などの基礎・基本を確実におさえる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

正規の授業回数の中で効果的な教育実習の事前・事後指導となるように努めるが、要望があれば応える。

〔教科書〕

本学所定の『教育実習の手引き』、『教育実習日誌』のほか必要な資料を随時配布する。

〔指定図書〕

なし。

〔参考書〕

商業・公民に関わる教科書。
その他必要に応じて提示する。

〔前提科目〕

3年次までの教職専門教科及び「中等教科教育法（商業Ⅰ・Ⅱ）」、「中等教科教育法（公民Ⅰ・Ⅱ）」、「商業実習」

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

事前指導（模擬授業等、レポート）及び事後指導（実習報告発表、所定様式のレポート）、教育実習校からの教育実習報告書（評価シート含む）、教育実習日誌などをもとに総合的に判断する。

なお、実際の評価にあたっては、3人の専任教員による。

〔評価の基準及びスケール〕

A:100～80 点
B:　79～70 点
C:　69～60 点
D:　59～50 点
F:　49～　0点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本学の「教育実習」は、高等学校の教員免許取得を前提に、4年次に学内で行う事前指導と事後指導を内容とする本科目と、実際に学校現場に出向いて行う実践的な「教育実習」からなる。したがって、教育実習に臨む者は、事前に教育実習の意義と目的、内容等の理解に努めるとともに、実習を効果的かつ充実したものにするための準備を十分にしておくことが大切である。なお、　実習校における教育実習終了後の事後指導としての実習報告も重視する。

〔実務経歴〕 該当なし。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):事前指導① 内　容:教育実習の目的と意義、教育実習の留意点 教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』)
第2回	テーマ(何を学ぶか):事前指導② 内　容:授業参観の方法と教材研究 『教育実習日誌』について 教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』ほか)
第3回	テーマ(何を学ぶか):事前指導③ 内　容:学習指導案作成と教材研究、板書計画、実習ビデオ鑑賞 教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』、ビデオ視聴)
第4回	テーマ(何を学ぶか):事前指導④ 内　容:学習指導案作成と模擬授業(1) 教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』ほか)
第5回	テーマ(何を学ぶか):事前指導⑤ 内　容:　学習指導案作成と模擬授業(2) 教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』ほか)
第6回	テーマ(何を学ぶか):事後指導① 内　容:教育実習アンケート調査、教育実習報告、教育実習報告書作成・提出 教科書・指定図書 (『教育実習日誌』ほか)
第7回	テーマ(何を学ぶか):事後指導② 内　容:教育実習アンケート調査、教育実習報告、教育実習報告書作成・提出 教科書・指定図書 (『教育実習日誌』ほか)
試 験	実施しない。各自が実習の報告と指定様式の「教育実習報告書」を提出する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
教育実習	2単位	教職科目(必修)

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
鈴木 郁生・内海 隆・西村吉弘 Suzuki Ikuo・Uchiumi Tkakashi・Nishimura Yoshihiro	**時間:**授業開始時に明示する **場所:**同上	実習

〔科目の概要〕

実習校(高等学校)での2週間(64時間。ただし、実習校によっては3週間の場合もある。)の教育実習である。教育実習の主な内容は、1)実習校による講話、2)学習指導に関するもの(授業観察・見学、教材研究、指導案作成、授業担当、研究授業等)、3)特別活動、生徒指導に関すもの(HR 参観、HR 指導案作成、HR 経営参加等)、4)学校の運営機構、教職員の職務の理解(校内研究・研修会、諸会議等の参加等)である。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

3年秋学期終了までに教職に関する科目の単位修得見込みであること、及び教育実習事前指導を履修すること。教育実習を経験することによって、教職への意欲と自覚を深め、また自らの教師としての適性も考えることにつながる。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

教職課程の総決算として、生徒理解や教科内容の理解、授業づくりなど、教師として必要な実践的指導力の基礎を身につけ、学校という組織の一員としての職責・義務を自覚して、教職への志向を確かなものとする。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

教育実習の事前指導における内容と実習校での実際とのギャップをできる限り少なくするように配慮する。

〔教科書〕

なし。

〔指定図書〕

なし。

〔参考書〕

商業・公民の教科書。詳細は授業時に指示する。
その他、資料集等。

〔前提科目〕

「教育実習事前事後指導」

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

教育実習校からの教育実習報告書(評価シート含む)、教育実習日誌、実際に作成し実施した学習指導案などをもとに総合的に判断するが、実際の評価にあたっては、教職課程担当の3名の専任教員による。

なお、新型コロナ感染防止の影響により実習校での期日等の変更には、臨機応変に対応する。

〔評価の基準及びスケール〕

A:100～80 点
B: 79～70 点
C: 69～60 点
D: 59～50 点
F: 49～ 0点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

教育実習の事前指導での教育実習全般の理解を深めたことをふまえ実習に臨むことを期待している。また、 実習期間中は、新型コロナ禍であることを配慮しつつ実習校と連絡をとり、実習の成果が上がるように努める。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

実習期間（2～3週間）	教育実習校（高等学校）において、2週間ないし3週間の教育実習を行う。実習期間中においては、当該実習校で「ホームルーム指導」、「授業観察」や「授業及び研究授業」等を行う。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
教職実践演習	2 単位	教職課程（必修）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
内海隆・鈴木郁生・西村吉弘 UCHIUMI Takashi・SUZUKI Ikuo・NISHIMURA Yoshihiro	**時間:**授業開始時に明示する **場所:**614 研究室（鈴木）・504 研究室（内海）・619 研究室（西村）	演習

〔科目の概要〕

本科目は、多くの学生が教育実習を終えている 4 年生の秋学期に開講される。すなわち、教職課程の締めくくりとして位置づけられる科目である。この授業を通して、教員に必要とされる知識技能修得の確認、およびこれまでの学修を統合・深化し、実践的な力としてもらいたい。そのため、教職の意義や責任に対する意識、社会性や対人関係能力、生徒理解と HR 経営、教科内容への理解と指導力などに関する主体的な学習の場とする。

具体的には、4 年間蓄積してきた履修カルテを用いて自分の知識技能を確認し、学習すべき内容を自ら選ぶ。また演習を中心とし、学生の討論、発表などに重点をおくものにする。更に、教育実践に対する理解と意識を深めるために、模擬授業や学外での見学なども行う。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

「教職実践演習」の主旨は「当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものとする」となっており、本学でもこれを踏まえた授業展開を行う。そのため教職課程の全科目のまとめを行うことになる。教員としての資質・技能を見直し、将来手にする教員免許状に相応しい力を身につけて欲しい。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

これまでの学修の確認と深化を中間目標として掲げる。最終的には、当該演習を履修する者の教科に関する科目および教職に関する科目の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

おおむね良好な評価であった。今後も展開を工夫し改善に努めたい。

〔教科書〕

なし

〔指定図書〕

なし。

〔参考書〕

授業時に適宜紹介する。

また、模擬授業等では、教科（科目）における教科書・資料集などを各自利用すること。

〔前提科目〕

な し。

ただし、履修カルテの記入が条件となる。そのため授業開始前に、履修カルテを完成させておくこと。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

授業参加態度、授業貢献、履修カルテ、レポート等の課題を通して、総合的に判断する。

〔評価の基準及びスケール〕

上記の〔学修の課題、評価の方法〕に示した総合点に対し、以下の基準で評定する。

A:100～80 点

B: 79～70 点

C: 69～60 点
D: 59～50 点
F: 49～ 0 点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
学生自身が考え、理解を深めていけるように学生の主体性を引き出す授業を心掛けたい。受講者も未来の教師として、積極的に課題に取り組んでもらいたい。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション・模擬授業準備 内　容: オリエンテーション・模擬授業準備を行う。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):模擬授業 1 内　容:選択した教科・科目について、模擬授業を行う。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):模擬授業2 内　容:選択した教科・科目について、模擬授業を行う。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):履修カルテを用いた4年間の振り返り活動 内　容:履修カルテを用いた4年間の振り返り活動を行う。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):履修カルテの各領域についてのグループ学習 内　容: 履修カルテのそれぞれの領域(学校教育の理解、子どもの理解等)について、グループ学習を通して学ぶ。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):研修プログラム案の作成に関するグループワーク1 内　容: 研修プログラム案の作成に関するグループワークを行う。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):研修プログラム案の作成に関するグループワーク2 内　容: 引き続き、研修プログラム案の作成に関するグループワークを行う。 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか): 模擬研修のための準備 内　容: 模擬研修のための準備をする。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか): 模擬研修のグループ発表 内　容:模擬研修のグループ発表を行う。 教科書・指定図書

第10回	テーマ(何を学ぶか):各研修プログラムの精査によるグループワーク 内　容: 各研修プログラムをグループワークを通して批判的に学習する。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか): 学校における問題事例に関するグループワーク 内　容:グループ活動として、学校における問題事例を検討する。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか): 学外学習(学校教育センター等)事前指導 内　容:学外学習に備え、事前準備を行う。 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか): 学外学習 内　容:学外学習を通し、教育に関する専門性を考察する。 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか): 学外学習に関する討論 内　容: 学外学習に関する討論を行う。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):教員の資質能力の確認と総括 内　容:授業での学習内容と履修カルテを基に、教職に関する各自の資質能力を確認し総括する。 教科書・指定図書